

露頭の風景 写真家の視点

斉藤 麻子

柱状節理というものを見てみたいと思い、静岡県下田市須崎半島の爪木崎へと向かいました。断面が六角形の細長い鉛筆のようなものが、同じ方向でいくつも連なる柱状節理を初めて目にし、同じ形状のものをまるで機械によって製造したかのように規則正しく造形するというところに、新たな地質の側面を発見したような驚きがありました。幾重にも重なった地層が作り出す縞模様も美しいですが、またそれとは全く異なった製法で作りに上げた作品のようです。さて今回は、その柱状節理付近の露頭です。鮮やかなオレンジ色に、目

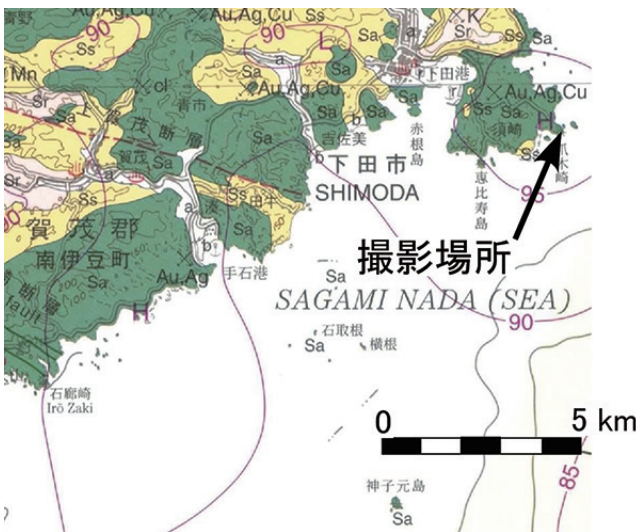
を引かれ撮影しました。当初の目的だった柱状節理にも負けず劣らずの存在感を出していました。柱状節理の沈んだ黒茶色とこの露頭のオレンジ色があまりにも対照的に見えたためかもしれません。露頭の写真を撮り始めたきっかけは、かつて神奈川県川崎市の生田緑地でオレンジ色のローム層を目にしたことでした。もしその時の土の色が黒色や茶色だったとしたら、それほど興味も惹かれずに露頭写真を撮ることにならなかったのではと思うと、私にとって露頭が放つオレンジ色は、地質へ目を向けさせるカラーなのかもしれません。

地質屋の視点

及川 輝樹

静岡県の伊豆半島は、かつては南方海上の火山島でありましたが、プレート運動により本州に衝突したことは、比較的広く知られていることでしょう。このような特異な成り立ちなどから、伊豆半島は日本ジオパークに選ばれています。この伊豆半島、今でも天城山、大室山や1989年に噴火した手石海丘（伊豆東部火山群）などの火山を多く抱えています。かつて南方の火山島であった頃の断面があちこちで見られます。特に、南伊豆や西伊豆の海岸沿いでは、大きな崖が連なるため、断面を良く観察できます。このうち、爪木崎の柱状節理をつくる安山岩は、約500～258万年前の鮮新世に活動した、

海底火山によりつくられたものです。この安山岩の表面は、風化によりもとの色から変化して、オレンジ色味がかっております。この爪木崎の安山岩などの伊豆半島が南の島だったころの地層・岩石は、古いものが湯ヶ島層群、やや新しいものが白浜層群と分けられてきました。しかし、ごく最近に、その両方の地層の時代には、差がないことがわかりました。これは、岩石や地層の年代測定手法が発展したため、わかったことです。特に、湯ヶ島層群の名前の由来になった湯ヶ島地域の地層の年代は、白浜層群とまったく同じ時代のものであることがはっきりしました。このように研究の進展や分析手法の発達で、地層の時代区分なども変わっていくのです。



20万分の1地質図幅「静岡及び御前崎」(杉山ほか, 2010)の一部に加筆。Saが海底火山や火山島をつくっていた岩石。その周囲に溜まった地層がSs。

文献

杉山雄一・水野清秀・狩野謙一・村松 武・松田時彦・石塚 治・及川輝樹・高田 亮・荒井晃作・岡村行信・実松健造・高橋正明・尾山洋一・駒澤正夫 (2010) 20万分の1地質図幅「静岡及び御前崎」(第2版). 地質調査総合センター, 1 sheet.

Tani, K., Fiske, R. S., Dunkley, D. J., Ishizuka, O., Oikawa, T., Isobe, I. and Tatsumi, Y. (2011) The Izu Peninsula, Japan: Zircon geochronology reveals a record of intra-oceanic rear-arc magmatism in an accreted block of Izu-Bonin upper crust. *Earth and Planetary Science Letters*, 303, 225-239.